

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

2月の日経平均株価は上昇しました。月前半は、好調な企業決算発表や資本効率の改善に向けた動きが好感されたほか、日米金利差を意識した円安を追い風に、株価は上昇しました。月後半は、米半導体大手の市場予想を上回る決算が後押しとなり、日経平均株価は一段と上昇し、史上最高値を更新しました。

02 日本債券市場

2月の日本長期金利は低下(価格は上昇)しました。上旬は、日銀内田副総裁が緩和的な金融環境を維持する考えを示したことで、過度な利上げへの警戒感が和らいだ一方、米金利の上昇を背景に揉み合う展開となりました。下旬にかけては、国内GDPのマイナス成長が金融政策正常化観測を後退させた一方、日銀植田総裁や高田審議員のタカ派発言から金利低下幅は縮小しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

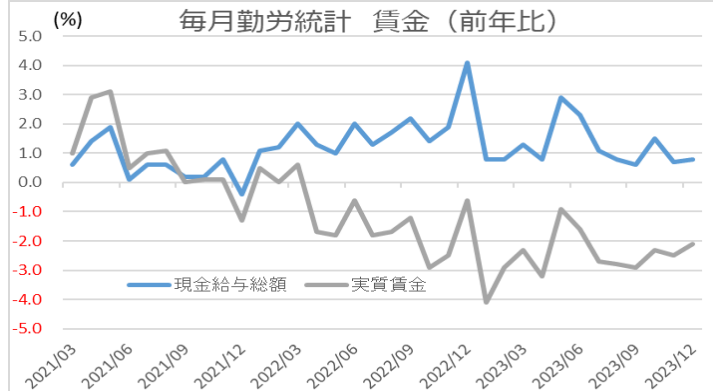
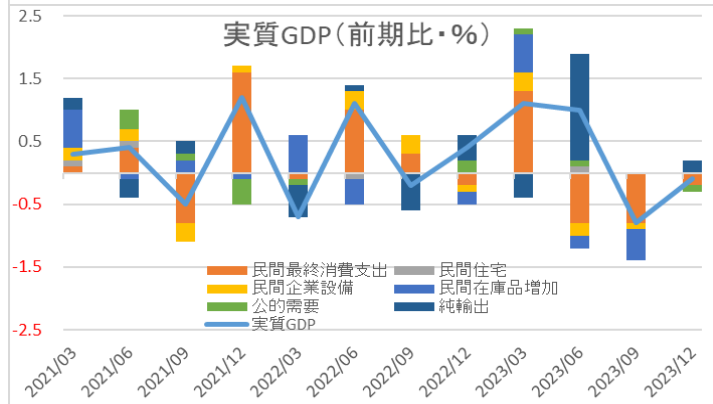
10-12月期の国内実質GDP速報値は前期比年率▲0.4%と2四半期連続のマイナス成長となりました。外需はプラスに転じたものの、内需は前期に続きマイナス寄与となり、引き続き個人消費の弱さが確認されました。この背景には、物価上昇に賃金が追い付いていないことがあり、毎月勤労統計では引き続き実質賃金がマイナスで推移していることが確認されています。春闘での賃上げにより、賃金と物価の好循環が生まれるかが注目されます。

今後の見通し

01 日本株式市場

堅調な企業業績と、資本効率改善に向けた動きが今後一層広がることへの期待が株価の支えとなると考えます。一方で、ここもとの急速な株価上昇の過熱感が警戒され、上値は重い展開を想定します。

また、日銀金融政策正常化観測の高まりから内外金利差が縮小し、円高が進行する場面では輸出関連株を中心に株価は下落すると考えます。



(注) データ期間：2021/3/31~2024/2/29  
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

ここもとの賃上げ機運の高まりと日銀のマイナス金利解除を示唆する姿勢から、金利上昇圧力がかかりやすいと考えます。一方で、物価指標は鈍化傾向であることや個人消費の弱さから、マイナス金利解除後の積極的な利上げは難しいと考え、長期金利の上昇余地は限定的であると見込みます。また、インフレ鈍化や雇用市場の悪化などから米国で利下げ観測が強まる局面では金利は低下すると想定します。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

2月のS&P500指数は上昇しました。上旬は、米大型ハイテク株や英半導体設計大手の決算が好感され、相場を牽引しました。中旬は、予想を上回るインフレ指標から早期利下げ期待が後退したことにより、株価は軟調に推移する局面もありましたが、下旬には米半導体大手の決算が好調であったことで株価は上昇し、主要3指数は過去最高値を更新しました。

02 米国債券市場

2月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬から中旬にかけては、雇用統計で労働市場の強さが示されたことや、CPIおよびPPIといった物価統計が市場予想を上回ったことで利下げ期待が後退し、金利は上昇しました。月末にかけては、社債の起債が相次ぐ中で、10-12月期実質GDP改定値が下方修正されたことやPCEコアデフレーターが想定通りの結果であったことから金利の上昇幅は縮小しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

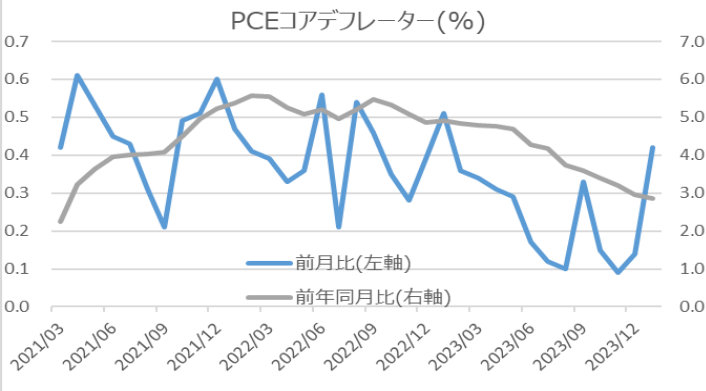
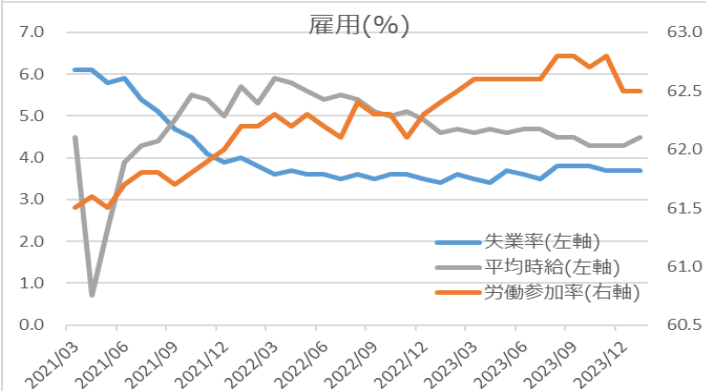
雇用統計では、雇用者数が大幅に増加し、過去3カ月分についても上方修正されました。失業率は横ばいで低位に留まり、労働市場の底堅さが示されました。CPI(消費者物価指数)はサービス価格を中心にの伸びが加速しました。PCEコアデフレーターは鈍化基調が継続しているものの、前月比でコア指数の伸びは加速しており、利下げ期待は後退しています。

今後の見通し

01 米国株式市場

引き続き、生成AI関連への成長期待と底堅い経済環境が株価を支える一方で、企業の決算発表が一巡し、ここも急速に株価が上昇してきたことで高値警戒感もあり、一進一退の展開となると想定します。

労働市場の鈍化など、これまで堅調推移してきた経済ファンダメンタルズに減速感が見られた場合は、ソフトランディング期待が後退し株価は下落すると考えます。



(注) データ期間：2021/3/31~2024/2/29  
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

米経済が堅調な状態を維持する中、インフレ率鈍化ペースの後ずれ懸念から早期の利下げ観測は後退しました。パウエルFRB議長は「そう遠くないうちに利下げを始めるのが適切」と述べており、3月FOMCにおけるドットチャートは12月に示された内容から上方シフトする懸念は少ないと考え、金利上昇幅も限定的と見込みます。

また、景気の減速懸念が高まる局面では、リスク回避の姿勢が広がり金利は低下すると考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。